

プログラム番号 LS 3-4D | 開催日時 2025年3月6日 (木) 午後 12:00 - 12:50

招待講演

人工遺伝子合成技術が切り開く非モデル生物研究 ー 寄生蜂毒タンパク質の機能解析の事例 ー

筑波大学 生存ダイナミクス研究センター教授
日本学術振興会 学術システム研究センター 専任研究員

丹羽 隆介

寄生蜂は、宿主・寄主の栄養を利用して生活するハチ目昆虫である。その種数は地球上で最も多いとの試算もあり、多種多様な寄生戦略が古くから学者達の関心を集めてきた。しかし、試料の小ささや飼育の困難さ故に、寄生を支える分子機構には未だ不明な点が多くある。我々は、ショウジョウバエを宿主とする寄生蜂に着目し、毒成分の同定とその機能解析を実施している。そして、色々な研究ツールの整備されていない寄生蜂を相手に研究する中で、我々は人工遺伝子合成技術の大きな恩恵を受けた。本セミナーでは、我々の寄生蜂研究において人工遺伝子の活用方法を紹介しながら、人工遺伝子合成技術が「非」モデル生物研究にもたらすメリットを議論する。

企業講演

Writing the Future: あなたの最高の研究アイデアを 実現するTwist人工遺伝子ツール

Twist Bioscience シニアビジネスデベロップメントマネージャー
金城 一貴

【お問い合わせ先】

Twist Bioscience

Email: jsalescustomer@twistbioscience.com

Phone: 045-345-5840

